

## ～ 家族支援専門看護師の役割と活動 ～

家族支援専門看護師と聞いて、ご存じの方はいらっしゃるでしょうか。看護職の中では少しずつ知名度も上がってきましたが、他の職種は初めて聞いたという方も多いと思います。家族支援専門看護師は、「家族看護」という学問をベースに、家族への支援を行う専門看護師です。日本看護協会の認定資格ですが、2022年度現在、全国の登録者数は82名です。専門看護師の中で登録が一番多いがん看護専門看護師の1,000名弱の人数と比べると、希少な看護の専門領域です。今回はまず「家族看護」とは、を知ってもらえるだけでもありがたいと思っています。

早速「家族看護」とは、です。初めて聞く人からは、「家族への退院時指導や生活指導をすること？」や、「家族の介護のこと？」と返されることも多いのが現状です。確かにそれも家族への支援の一つですが、「家族看護」の定義は異なります。家族看護とは「看護職が家族を対象に看護すること。

家族が家族と思う者すべてのつながりや関係が、家族自身がより良いと思う方向へ変化できるよう看護職として支援する」。ここでいう「家族」とは「患者さんを含めた家族」を表しています。少し難しい定義なので、例を挙げてみます。

終末期ケアにおいて、患者さんと家族の意向が異なる場面に遭遇します。患者さんは「もう治療はやめて、自宅で過ごしたい」と話し、夫は「治療をあきらめるな、頑張れ」と励まします。長男は、「家族の意見をまとめます」と話すのですが、仕事が忙しいと連絡もありません。私たち医療者は、「家族なんだから、ちゃんと話し合ってもらいたい」と、ついネガティブな感情が生まれ、『困った家族』と“レッテル”を張ってしまいがちです。

家族だからこそ、話し合えないときがあります。家族のそれぞれは別個の存在であるものの、お互いに強く関係しあっています。家族の中の一人が病気、入院、退院という事態は、家族全員のそれぞれに影響します。生活スタイルが変わり、家事や育児などの役割も代行しなくてははいけません。そして、病気が進行し、亡くなってしまふかもしれないという不安な気持ちや悲しみでいっぱいになっているかもしれません。家族看護は、そうした患者を含めた家族全体の変化をとらえ、家族のつながりや関係、歴史を通して、患者を含めた家族一人ひとりの背景を描きます。そして、『困った家族』ではなく、『大きな変化の中、どうしたらいいか困っている家族』と視点を変えます。援助者の見方の変化は、家族の言動や行動を変えます。家族自身がこれからのことを決めていけます。そうした視点をもちながら、日々、現場の看護師たちと共に家族看護を重ねています。

今、入退院支援やメディエーションなど患者さんのみならず家族も含めた支援が注目されています。当院に家族支援専門看護師がいることから知ってもらい、ぜひ活用してもらえたらと思います。そして、もし興味を持ってくださった看護師の方がいらしたら、家族支援専門看護師をキャリアの道の一つとして入れてもらえたら幸いです。